

「組織が変わる」後半 2on2

第4章 新しい対話の方法2on2とは何か…**概要**

第5章 2on2の何が効果的か…体験者等の**インタビュー記録**

第6章 2on2を実施する際にやってはいけないこと…**禁止事項**

第7章 なぜ2on2を開発したのか…**先行研究**

第4章 新しい対話の方法2on2とは何か

- 2on2とは…4人で行う対話の方法（理解の断片を持ち寄って問題を考える）
- 注意事項…問題解決モードに陥らない→アドバイス禁止
- 話すテーマ…当事者（Aさん）の慢性疾患的困りごと
- 問題に名前をつける…当事者研究（事象等に没入することなく、観察的な態度を取る）の手法による問題の外在化

第6章 2on2を実施する際にやってはいけないこと

1. 2on2を実施する理由が共有されていない
2. すぐに**問題解決策**を言ってはいけない
3. 全部周りのせい、他人のせいにしない
4. きれいに終わらせようとしない
5. 周りの人たちは**自分の話**を始めない
6. 目新しいだけで始めない（やってみましたね…）

目的をどこにおくか？

Aさんの悩みについて、Aさんのために、**理解を深める**。

Aさんの「悩みの洞窟」を4人パーティで探検するイメージ



Aさん

洞窟内で行先を選ぶ人。洞窟内を何度も行き来しているが、その全てを知っている訳ではない。



Bさん

唯一、懐中電灯を持っている人（Aさんへ質問できる）。「Aさんの知らない通路」を照らす時がある。



Cさん、Dさん

AさんとBさんの後からついていく人。なぜか「Aさんの知らない隠し扉」を発見することがある。

Aさんのモヤモヤはきれいには終わらない

禁止事項！

みかけたら、チャットで注意してあげてね！

1. **問題解決策**を言ってはいけない

- ・ 問題解決策を言うことは、「問題はわかった。探究終了」の宣言です。

アドバイス禁止！

2. **自分の話**を長々しない

- ・ Aさんの探究をやめて、自分の探究に連れていってしまう可能性があります。

対話の基本姿勢は相手を知ること。教えることではありません。

第7章 なぜ2on2を開発したのか

2つの先行研究

- ① **リフレクティング・プロセス**（トム・アンデルセン）…2on2 原型
- ② **当事者研究**（浦河べてるの家）…障害を持つ本人が自分の病気について研究
 - ・ 病気に名前をつけることで人と問題を切り離す。例：幻聴さん)
 - ・ 「病気はあなたを助けにきている」…表面化した問題の背後には、もっと切実な困りごとがあり、それを表現するために問題が出てきている。